



一川大臣・山岡大臣の問責決議可決 不適格な大臣たちは直ちに交代を

両大臣のこれまでの言動を考えれば、問責可決は当然の結果です。内閣発足直後の鉢呂大臣の辞任に続く、2人目、3人目の大臣の問責可決ということで、この3カ月の野田内閣は「安全運転」というより、いまだに「仮免許内閣」だということが証明されました。

日本の安全保障を一川防衛大臣には任せられない。

私は安全保障の素人と公言する一川防衛大臣のどこが適材なのか

一川保夫防衛大臣は就任する際、「私は安全保障の素人。それが本当のシビリアンコントロールだ」などの的外れで信じられない発言をしていました。尖閣諸島等を巡る周辺国との関係が不安定化する中、諸外国に防衛大臣が無知な素人であるとのメッセージを送ることは極めて危険です。

ブータン国王の宮中晩餐会よりも政治資金パーティーを優先する非常識

一川防衛大臣は、ブータン国王夫妻を歓迎する宮中晩餐会を欠席し、民主党議員の政治資金パーティーに出席。そこで「宮中晩餐会より、こちらのほうが大事だ」とまで発言しました。国務大臣としての自覚がないだけでなく、常識や礼節といった当たり前の資質を欠いています。

沖縄問題への無理解、不勉強、そして、責任感の欠如

沖縄防衛局長が、女性の尊厳を踏みにじり沖縄県民の心情を傷つける発言で更迭されました。トップの一川大臣が謝罪し、責任をとるべき問題だと考えます。さらに、この問題の国会質疑で、一川防衛大臣は1995年の米軍海兵隊員による暴行事件について「詳細な中身は知らない」と答弁するなど、沖縄問題への無理解と不勉強が露呈。基地問題の解決にむけた担当大臣としての責任感が微塵もありません。

マルチ商法を宣伝して献金をもらう。そんな山岡大臣が 消費者庁と警察のトップで良いわけがない。

平成20年6月、山岡賢次大臣（当時は民主党国対委員長）は実質的にマルチ商法業者が開いた大会で講演し、ネットワークビジネス、いわゆるマルチ商法を自ら宣伝して会員の勧誘を行っていました。この映像が動画投稿サイトYouTubeにアップされており、その中で山岡大臣は、ネットワークビジネスがいかに合法であるかを力説し、政治の場からのバックアップを約束するなどマルチ商法の広告塔の役割を担っていることがはっきりとわかります。

この他にも、選挙の買収や資産隠しなど数々の疑惑がある山岡議員が消費者問題担当大臣として、また全国の警察のトップである国家公安委員長としてふさわしいはずがありません。

野田総理は、今回の参議院での大臣問責決議の可決を任命権者として重く受け止め、即刻、両大臣を罷免すべきです。党内融和のために問責大臣の居座りを認めたり、内閣改造時にこっそり交代させるなど、問題先送り、あいまいな決着をすれば、まさに野田総理の任命責任、リーダーシップの無さが問われます。